

Ⅱ 第二中学校区の研究と「学力向上パートナーシップ事業」との関連

【第二中学校区 共通の課題】

- ・学力調査では、全国や都の平均正答率を全般的に下回っている。
- ・特に、算数・数学には苦手意識の強い児童・生徒が多く、「活用」など思考力を問われる問題においては、正答率の低下が顕著に現れている。
- ・学習に対する興味・関心はあり、「できるようになりたい」という思いもあるが、集中できる時間が短く、学習意欲を持続することに課題がある児童・生徒が多い。
- ・「読む・書く・計算する」といった基礎的・基本的な知識の定着に課題がある児童・生徒が多いが、全体としては少しずつ向上してきている。

児童・生徒が「わかりたい」「できるようになりたい」という「学ぶ意欲」をもつこと、さらにそれを持ち続け、高めていくことこそが、『確かな学力』を身に付けさせるための第一歩であると同時に、必要不可欠なことと考える。

第二中学校区 研究主題

「学ぶ意欲の向上を目指して」～算数・数学科を中心とした学力向上の方策

目指す児童・生徒像 「意欲的に学び続ける児童・生徒」

- ・授業で課題を的確にとらえ、進んで考え、表現しようとする
- ・学年相応の基礎学力がきちんと定着している
- ・家庭での学習習慣が身に付いている

研究の3つの重点

①基礎学力の定着・向上

○放課後補習教室の実施

学力の定着に課題が見られる児童・生徒を対象に「補習教室」を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。

②個に応じた指導の充実

学習支援員を活用した

授業の展開

学習支援員を配置し、既習事項の定着に課題が見られる児童・生徒へ、授業中により細やかな「個に応じた指導」を行う。

③ 家庭学習の充実

家庭学習重点強化期間の

設定

家庭学習の重点強化期間を設けることを3校で共通理解し、実施する。毎日の家庭学習を習慣化させ、学習事項の定着を図る。

学力向上パートナーシップ事業

Ⅲ 各学校の取組

1 第二中学校

(1) 取組

ア 放課後補習教室の実施状況

- ① 実施日程：毎週1回（水） 放課後 1時間実施（夏休み期間中は5回実施）
- ② 対象： 各学年30名程度（※定期考査などから学力に課題がある生徒）
- ③ 実施内容：各学年の数学の教科担当が作成した練習問題プリントを実施
 1年生：上記問題と授業で実施した練習問題の復習
 2年生：学力別に3グループに分けて、上記問題と「学習探検ナビ」から学年を問わず、つまずきに応じた課題プリントを実施
 3年生：授業中に行った演習問題(計算問題)の復習

イ 学習支援員の活用方法

- ① 各学年に2～3名を配置（事前に生徒の学力に合わせた支援を指示）
- ② 問題に悩んでいる生徒に考え方や解き方の助言(特に挙手できない生徒に配慮)
- ③ 解答の採点（生徒を褒めたり励ましたりしての意欲の向上）

(2) 成果と課題

ア 成果

① 生徒による意識調査アンケートの結果（1年生）

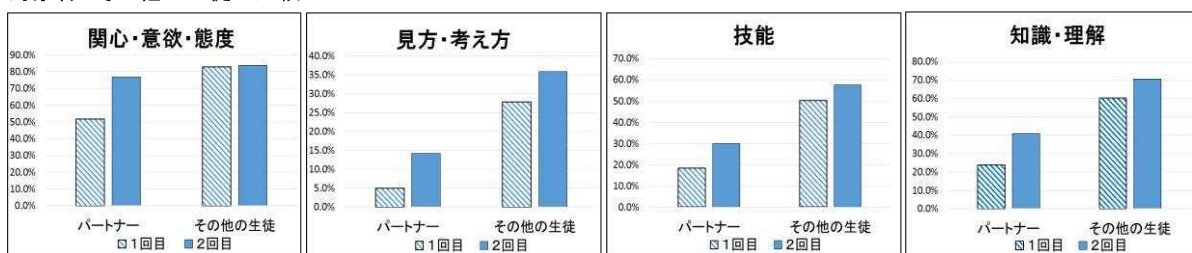
	4	3	2	1
1. 放課後補習教室中にできるようになると意欲的に取り組んでいる。	20	1	10	0
2. 放課後補習教室の内容の復習を行っている。	10	6	4	2
3. わからないことを支援員さんに質問して解決している。	17	2	2	0
4. 放課後補習教室を通してできなかったことができるようになった。	20	7	0	0
5. 今後の放課後補習教室を積極的に受けたい。	15	4	2	1

放課後補習教室の風景



② 東京都学力調査の結果比較（2年生）

対象者とその他の生徒の比較



イ 学習支援員の活用効果と成果（生徒のアンケート結果から）

「数学は嫌いだったけど、放課後学習教室を受けて授業が分かるようになったから、少し好きになった」「先生や支援員さんに聞くと分かりやすく教えてくれたので、わからない問題もすぐに解くことができた」等の声が多く聞かれた。授業では補えない基礎学力に課題のある生徒への指導が可能になり、学習意欲向上につながった。

ウ 今後の課題

- ① 学習教室に参加しても基礎学力が定着できない生徒への更なる支援方法の工夫
- ② 学習支援員との指導方法等の打ち合わせ時間の確保

2 第二小学校

(1) 取組

ア 放課後算数教室

- ・毎週火曜、木曜日 15:30～16:30で実施
- ・4月に調査問題Aを実施し、4割以下の児童を対象
- ・対象児童の保護者に参加申込書を配布し、任意で39名の参加
- ・学力向上パートナーシップ支援員3、4名他、教員が指導にあたる
- ・「東京ベーシックドリル」を中心に、個別に指導を行う

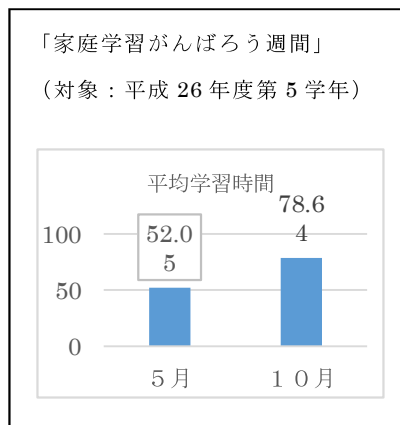
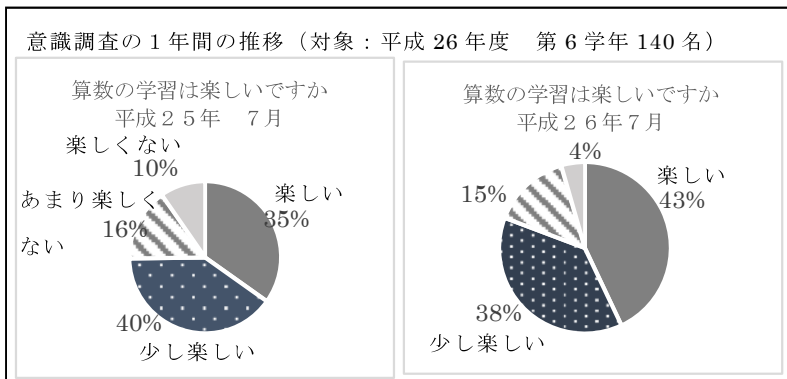
イ 習熟度別少人数算数での学習支援

- ・「じっくりコース」「しっかりコース」「チャレンジコース」に分かれ、5年生は3クラス4展開、6年生は2クラス3展開で行う。
- ・対象児童の多いじっくりコースに学習支援員を配置し、個別支援を行う。

ウ 家庭学習における家庭との連携

- ・保護者会、学校便り等を通し、家庭学習の目標時間を「15分×学年」として、広く呼びかける。(例 6年生は15×6＝90で90分)
- ・全学級で「漢字」「算数」「音読」を毎日の宿題とし、家庭での声かけや励ましを呼びかける。

(2) 成果と課題



質問	児童	①	②	③	④
自らすんで学習できた		48%	41%	4%	7%
学習することがよく分かった		52%	37%	7%	4%
分からないところを、質問できた		63%	19%	7%	11%
算数ができるようになった		48%	30%	7%	15%
算数が好きだ		19%	37%	15%	30%

児童アンケートより

- ・分からないことができるようになってうれしかった。
- ・先生が優しくやる気が出た。
- ・またやりたい。

放課後算数教室 (対象児童へのアンケート)

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

- 放課後学習教室、授業での学習支援員の活用により、基礎学力の向上が見られた。
- 家庭学習を広く呼びかけることで、学習習慣が定着し、基礎学力の向上につながった。
- 児童自身が学力の向上を実感できることで、算数科に対する意欲の向上が見られた。
- 学習支援員との、指導方法や児童の学習状況についての打ち合わせ時間の確保が課題である。

3 友田小学校

学習教室の様子

(1) 取組

ア 放課後学習教室

- ・毎週火曜、木曜日 15:30～16:30で実施
- ・学習支援員4名、参加児童15名程度



記録者	記録内容	活用者	活用方法
児童	「東京ベーシックドリル」等の結果	児童	つまずきに応じた学習計画
教員	効果検証等の結果	教員・学習支援員	つまずきに応じた指導計画
児童	自己評価	児童	学習意欲向上・学習習慣定着
学習支援員	学習状況の記録	教員・学習支援員	個に応じた指導方法の工夫

- ・参加の児童個人カードを作成し、以下のように活用した。

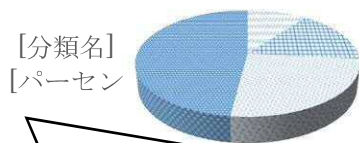
イ 習熟度別少人数算数科の授業に学習支援員を配置

3年生から6年生において2クラス3展開、週に約2.5時間程度実施。基礎的・基本的な内容の定着に課題のあるクラスに学習支援員を重点的に配置した。

(2) 成果と課題

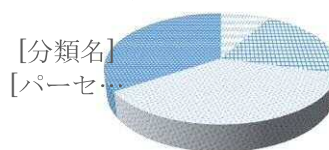
平成25・26年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の比較

25年度 正答率



[分類名]
[パーセン]

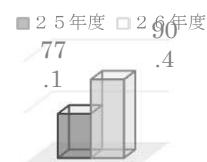
26年度 正答率



[分類名]
[パーセ...

- ・学力層D48%が、34%に減少した。
- ・学力層Dにおいて、正答数0～6問の児童が11%だったが0%に減少した。
- ・「関心・意欲・態度」の正答率が13.3%高まった。

関心・意欲・態度



学習支援員のアンケートより（％は「当てはまる」と答えた割合）

学習支援が意欲の向上につながっていると思う。	93%
学習支援が基礎学力の向上に結びついていると思う。	100%
担任や担当（算数専科教員）との連携が取れている。	93%

- ・授業と放課後学習教室の両方で学習支援をすることで、児童との人間関係を築きやすくなった。
- ・支援に入る前に教員から児童の様子等の申し送りを受けることで、対応方法を学習支援員で検討し、連携を図りながら、個に応じた指導をすることができた。

- 「自分ができるところが伸ばせてうれしかった」「支援員の先生に教えてもらって苦手だった割り算や分数ができるようになり、算数が楽しくなった」などの児童の声を多く聞かれ、学習意欲の向上が見られた。
- 学習に集中することが困難な児童に対して、個に応じた指導を継続しながら、意欲を高める指導の手立てをさらに工夫していく必要がある。

